

# こんなことあったよ！レポート

平成 21 年 3 月 10 日(火)

東北風景街道ステップアップセミナー 編



会場には各街道のパネルやパンフレットなどが展示されました。



新登録の 3 団体と東北風景街道協議会の方々との記念撮影もありました。



かとうさんのお話には北海道らしい魅力満載の企画の紹介もありました。

国交省の方々は羨ましい後ろの席。佐藤さんはこの辺でした。



NW は登録第一号なので 3 人並んで最前列の席でした。学生の時にすら座ったことがない位置なのでそれだけで緊張します。

3 月 10 日午後、仙台市のエル・パーク仙台にて東北風景街道ステップアップセミナーが開催され、当 NW から事務局顧問の植野芳彦さん(株長大)、能代河川国道事務所の佐藤康弘さん、木高研の佐々木貴信先生と渡辺千明の 4 名が参加しました。主なプログラムは下記のとおりです。

- 講演 「地域活動を楽しく継続させる方法」  
かとうけいこ氏(有限責任中間法人シーニック ツアー・広報部長)
- フリートークセミナー 『地域を元気にする資源の使い方～「あるもの活かし」でかせぐ方法』  
堀 繁氏(東京大学大学院生物資源環境研究センター・教授)
- 第 4 回東北風景街道協議会 H2O 登録 3 団体への登録証交付と団体からの今後の抱負
- 交流会

かとうさんのお話は、さすが先進地の広報部長！と思わせるパワー溢れるお話しぶりと内容で、当 NW からこういう人材が出るようになってほしいなあと思いました。楽しくなければ続かない、身の丈にあったことからやろう、顔の見える取り組みにしよう、連携をしようといった私たちも日頃から心がけていることが、お話の「シーニック 10 カ条活動の心得」の中にもあり、NW の方向が間違っていないことを再確認することができました。

また、ルートをドライブすることによって発生する CO<sub>2</sub> を削減・相殺するため、「シーニックバイウェイ カーボン・オフセット」という観光と環境の共存をはかるための取り組みを環境部会を作って行い、企業からの協力も得ながら、「シーニックの森」でツアー参加者と植林をされているそうです。私たちの活動では「地域の木材の利活用」がポイントの一つです。佐々木先生の木製ダム(こんなことあったよレポート 2 月 14 日全国大会行ってきました！編参照)もありますので、今後の取り組みの大きなヒントになりました。

堀先生セミナーは、予め各団体から出された「地域の優れた資源を地域の人に認識してもらい活動につなげていくためにはどうしたらよいか？」という質問に答える形で始まりました。

先生によれば、「資源」には①もともとそこにあるもの(= 既存資源・地域資源)②魅力となっているもの(= 観光資源)の 2 つの意味があり、それを混同せず、地域の人が意識的に①を②に変える努力が必要とのこと。その際の考え方のポイントとして、次の 3 点をあげられました。



ホワイトボードを使い、また映像で具体例を示しながら説明される堀先生のセミナーはどんどん話しに引き込まれ、とても分かりやすく、大変勉強になりました。



消防の関係で短時間でしたがスギあかりの中でろうそくも灯していただきました。が、他の団体はご自慢のお酒や地ビールの紹介をされており、やっぱり口に入るものはいいなあ、そういうモノも開発したいなあと思いました。



交流会は盛況のうちに時間となり、最後はめでたく三本締めでお開きとなりました。

- ・①の既存資源（山や川、博物館など）がそのまま魅力になることはまずない
  - ・資源は磨けば必ず輝く
  - ・資源を光り輝かせるためには「休む場所」をつくる
- 休む場所とは、外から来た人に地元お勧めの資源を見せ、意識させる場所（＝資源と一体になれる場）のことで、何やら楽しそうに見える状況をつくり出すことによって「おもてなし」のメッセージを発信し、その場にお金を落としてもらえ、お金をかけずに簡単に始められる取り組みなのだそうです。

ご紹介いただいた事例は、ダムや道路を造るよりははるかに安いかもしれないけれど、当NWのレベルでは相当に高そうだなあと感じましたが、山谷分校の裏手から見る白神山地や梅内の共有林から見る能代平野、常盤のため池、二小の桜など磨きたい場所は色々あるので、今後皆さんと考えていきたいなと思いました。

**前**回のセミナーでは、商品開発をして儲けなさいというお話が先生からあったようですが、今回は儲けることの意味として3点をあげられました。①お金が落ちることは地域にとってよいこと ②団体には次世代へバトンタッチするためにも維持費が必要 ③利用者は楽しくお金を使いたいと思っているのだから、満足感を提供することが重要 本当にそのとおりですね。

交流会のテーブルにはスギあかりと松の香りろうそくを置かせていただき、また、それを皆さんに説明する時間もいただきました。佐々木先生と金高さんの労働の賜物・スギあかりの売価は、安すぎるよと先生に言われてしまいましたが、私たちの活動に多くの方が関心を持って下さったのではないかと感じています。今後も情報発信の機会を活かしながら、先進事例やアドバイスを取り込み、NWらしい活動につなげていきたいと思っています。

文：渡辺千明

**感想1** 堀先生のセミナーは前回に引き続き、期待を裏切らないとてもおもしろい内容でした。これはどうか能代に来てもらってアドバイスを貰いたいと思い、交流会でしつこくお願いしておきました。堀先生は林学科の出身ということで、木材に対しての思い入れもあるようで、身近に感じることができました。能登会長さんはじめNWの皆さんにも講義を聴いてもらえる機会を作りたいです。

佐々木貴信

**感想2** 堀先生は、「木材」は数多ある材料の中で唯一、人をもてなす力を持っている材料であると話されました。ベンチでもスチールと木材を組み合わせるデザイン（ハイブリッド？）がいいと紹介されました。のしろ白神NWは「木の香るまちづくり」を目指して頑張っていることを考えると、木で人をもてなせるようなまちづくりを実現することにより、地域の人・観光客等をもてなせる町になっていく＝していかなければならないと感じました。

佐藤康弘